



新任のご挨拶

著者	小川 祐生
雑誌名	工作ニュース
巻	9
ページ	2-2
発行年	2017-04
URL	http://hdl.handle.net/2241/00146426

工作部門 技術職員 小川 祐生

平成28年4月より入職いたしました小川祐生と申します。よろしくお願いします。

前職では設備機械会社に勤務し、設備機械のライン設計に携わっていました。部品作製などを自ら行う機会は殆ど無く、一から覚えなおしている最中ではありますが、CADの扱いや作業向けの製図法など活かせる部分も少なからずあると思いますので、上手く融和させていけたらと思っています。

趣味は車、バイク、写真等々手広くやっています。車がMTだったりカメラがフィルムだったり時代の流れに逆行している感がありますが、やっていけば上達が見えてくる、自分の知識や技術で良くも悪くもなる、そういった部分に魅力を感じているのかもしれません。

私が以前から抱いていた筑波大学のイメージはとにかく敷地が広い！といった大雑把なものでしたが、仕事を始めてみて研究内容や学群の多さなど大学の中身もかなり広いんだなと実感しています。持ち込まれてくる依頼も、理工学系のみならず芸術系・体育系と分野が多岐にわたり、部品・製品に対する考え方もそれぞれ異なっているため難しい部分も多くあります。とは言え、そういった事に挑戦できるのが、筑波大学技術職員の特徴で面白い部分だろうなと感じています

また私個人、学生時代の実習以外でも部活に課外活動に個人的な用事にと、技術職員の方に様々な方面でお世話（御厄介）になってきました。高専と大学では技術職員の役回りが異なる面もあるとは思いますが、ちょっとした加工などを気軽に相談できる様な取っ付きやすい職員を目指していきたいと思っています。

最後に二年目を迎えるに当たっての抱負といたしまして、この一年間工作部門で学生・教職員からの依頼品を製作してきましたが、技術面はもとより段取り・対応などの面でも十分に達成できなかった部分が多々ありました。

- ・依頼内容を確認した段階で、使用工作機械の選定及び作業の順番を決めるようにする
- ・溶接条件や加工物の取付など、経験値となるものは記録・写真を必ず残す
- ・依頼者と積極的に情報交換を行い、各研究室の研究内容を把握する

以上のことを掲げ、自分自身としても楽しみながら、仕事の効率化を図っていききたいと思います。

まだまだ学ぶべきことは多いですが、常に新しいことに興味を持ち続け、安心して作業を任せていただけるように努力していきたいと思っています。

どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。